

オーストラリアの大学の留学生受け入れと 留学生獲得戦略

—ニューサウスウェールズ大学の国際教育—

ニューサウスウェールズ大学 Lecturer 飯田 純子

IIDA Sumiko

キーワード： オーストラリア、国際教育、留学生受け入れ

1. はじめに

OECDが今年7月に発表した最新のデータ¹によると、今日全世界の「高等教育機関で学ぶ留学生」（以下「留学生」とする²）の総数はおよそ450万人である。過去に遡ってその数を見ると、1990年には約130万人だったのが、2000年には約210万人、2011年には約430万人と、この20年あまりの間に留学生の数は3倍以上になり、その増加率は特に2000年以降勢いを増している。2011年のデータでも留学生受け入れ国の上位5カ国とその受け入れ率は2010年と変わらず、アメリカ合衆国の17%、イギリスの13%に続いて、オーストラリア、ドイツ、フランスがそれぞれ6%と肩を並べている³。留学生の主な留学先は英語圏の国で、米英豪の3カ国で全世界の留学生の36%、およそ3分の1強を受け入れていることになる。一方、2011年の全世界の留学生を出身国別に見ると、一番多いのが中国で72万3,000人、次に多いのがインドで22万3,000人、続く韓国、ドイツがそれぞれ13万9,000人、13万2,000人である。10万人を超える留学生を送り出しているこの4カ国のうち上位3カ国がアジアの国で、これら3カ国を含めたアジア人留学生の数は全世界の留学生総数の53%、つまり、留学生の二人に一人以上がアジアからの留学生ということになる。

オーストラリアはアジア太平洋地域に位置しており、アジア諸国にとって地理的に一番近い英語圏の国であるというメリットに加え、大学が提供する質の高い教育や研究業績、温暖な気候、治安の良さ、そして移民を多く受け入れている多文化国家であるなど、留学先として魅力的なイメージを長きにわたって築いてきたが、ここ数年留学生の数は減少しつつある。オーストラリアにおける留学生の動向については、本誌2012年12月号掲載された、橋本博子氏の「モナッシュ大学の事例紹介」に詳しい⁴。橋本氏は2011年から2012年前半まで半年ごとに発表された、オーストラリアの国際教育による年間輸出収入の減少幅が12.4%から4.9%に縮小しており、留学産業回復の兆しを示唆している。

2013年5月のデータ⁵でその後の動きを見ると、2012年の年間輸出収入はおよそ150億ドルでその減少幅は4.4%とさらに縮まっている。さらにAustralian Education International (AEI)の統計データから留学生の数で過去2年間の動きを見ると、2011年度にはその前年度より8.9%落ち込んだ留学生総数も⁶2012年には成長率が-5.5%

に留まっている⁷。しかしながら、高等教育機関で学ぶ留学生の人数に注目すると、2010年から2011年は横ばい状態であった数が、2011年から2012年にかけて4%落ち込んでいる。同じくAEIが月ごとに発表している留学生の各教育機関への総登録数⁸で、2013年1月から8月までの留学生の高等教育機関への登録数を前年度の同時期と比較してみると、2.9%減となっており、この数値から見ても下げ幅はわずかではあるが、高等教育機関に関しては学生数がやや減少傾向にあると言えるだろう。

一方、Lawton他(2013)⁹やブリティッシュカウンシル(2013)¹⁰など最近の研究調査報告によると、高等教育機関への留学生数は今後10年で過去10年間のような勢いはないものの、緩やかに上昇し、インド、インドネシア、中国を含むアジア地域を中心に需要が拡大していくと予想されている。これを受けて、オーストラリアでも連邦政府、州政府、そして各教育機関の長期的展望も視野に入れた留学生獲得への取り組みが始まっている¹¹。本稿では2012年12月号のモナッシュ大学の例に続いて、オーストラリアの大学レベルでの国際教育の現状及び取り組み例第2弾として筆者の勤務するニューサウスウェールズ大学の国際教育についてまとめる。

2. ニューサウスウェールズ大学と国際教育

ニューサウスウェールズ大学(以下UNSW)は、シドニー市内の東側、イースタンサバークと呼ばれる郊外に位置する総合大学である。その前身は1949年に設立されたニューサウスウェールズ工科大学で、1958年に現在の名前に変更された。その後文学部、法学部、そして医学部と新しい学部が立ち上げられ今の形になった。モナッシュ大学同様UNSWはGroup of 8 (Go8)と呼ばれる8つの大学からなるオーストラリア研究大学連合に属しているほか、世界の研究大学でつくる21世紀の大学研究交流を目的として1997年に設立されたグローバルネットワークU21、Universitas 21¹²にも設立当初から参加している。UNSWにおける国際教育の歴史は古く、その前身のニューサウスウェールズ工科大学が英連邦大学協会に加盟した翌年の1951年に、コロンボ計画の一環で11人の留学生を受け入れたのが始まりである。その後、アジアからの学生を中心に留学生の数は増加して行き、1960年までには留学生の数はUNSW全学生総数の約10%に達した。2012年の統計によると学位取得目的で学ぶ学生登録数49,188、うち留学生の登録数は12,182で、25%の学生が留学生であるという計算になる¹³。学生の出身国はさまざまに2012年は125カ国を数えたが、その上位国はアジア諸国で占められている。中でも中国からの留学生は群を抜いて多く、2012年の中国からの留学生の登録は同年の留学生総登録数の半分弱にあたる5,748であった。それに続くマレーシアからの留学生の登録数844を見ても、中国からの留学生の多さがわかる。その他の上位10カ国は、香港(735)、インドネシア(662)、シンガポール(537)、韓国(410)、ベトナム(275)、インド(259)、イラン(189)、サウジアラビア(188)であった。

留学生の履修プログラムについては、2012年の内訳では、全体の52%(登録数6,322)が学部生、37%(4,550)がコースワークで学位を取得する大学院生で、研究論文によって学位を取得する大学院研究学位登録者は11%(1,391)となっている。所属学部別で見ると、留学生の数が一番多いのはビジネス学部で同年の登録数は留学生総登録数の39%にあたる4,761だったが、ビジネス学部に所属する学生総登録数に対する留学生

の割合は全体の34%で、留学生登録数では第2位である工学部所属の留学生(3,616)の学部総登録数に占める割合(37%)よりやや低めになる。

以上をまとめると、UNSWでは、ビジネスを勉強する中国からの留学生というのが2012年の典型的な留学生像だったということになる。2013年のはっきりした統計はまだ発表されていないが、このイメージには変化はないと考えられる。

モナッシュ大学同様、UNSWも大学の国際戦略が5年ごとに発表されて毎年アップデートされている。本学ではグローバルな研究(Global Research)、グローバルな教育(Global Education)、グローバルな学生(Global Students)、グローバルなコミュニティ(Global Community)を4本柱に国際化に向けた様々な戦略が提案され、副学長の承認後、各学部長、学部所属の教育委員会、及び各学科長に伝えられ、取り組みが促される。現在の国際戦略は2011年に2015年までを視野に入れたもので、1.国際的な大学のスタンダードの維持、2.様々な国から質の高い学生のリクルート、3.国際人として活躍できる学生の輩出、4.学術提携や卒業生ネットワーク、国際教育を通じたアジア地域への貢献、5.学部、大学院への留学希望者に対する効果的な進路提供、6.国籍文化に関わらずお互いが協調し合える安全な環境の維持の6点が5年間の目標として掲げられ様々なレベルでの取り組みが進んでいる。

3. ニューサウスウェールズ大学の国際関連組織

UNSWには副学長の直属の機関として大学の国際関連業務を取りまとめるUNSW International¹⁴がある。ここでは、海外の大学との連絡交渉、大学間協定の締結、海外に向けたマーケティング、学位留学、短期自費留学、交換留学、そして実習留学を含む留学一般の業務がいくつもの部署に分けられ遂行されている。こことは別にUNSW Global¹⁵という似た名称の機関があって混同されやすいが、UNSW Globalは独立採算制をとるUNSW所有の株式会社で、大学とは全く別経営である。ただし、短期語学留学や大学入学のための準備コースなどはこちらの管轄なのでこれらについても後述する。

3-1. UNSW International

UNSW Internationalは、その下部構造が臨機応変に見直され、現在(2013年8月付)は副学長の下に海外の大学との外交を行う国際外交部、留学に関する業務を行う国際教育部、そして中国戦略開発部の3部門に分かれている。先にも述べたように、UNSWは中国からの留学生が圧倒的に多いことから、このように中国だけをターゲットにした戦略開発部を設けているが、ここでは留学生のリクルートを行うのではなく、学内の孔子学院を通じて中国政府や企業とのパートナーシップを密にしていくことで中国から多くの留学生をリクルートするための基盤を築く役割を担っている。国際教育部は業務執行取締役の下にマネジメント及び財務などの一般事務部門の他、新規にマーケットを開拓するための研究開発部門、短期留学部門、学位留学生リクルート部門がある。短期留学生部門はさらにその下に短期交換留学、実習留学を扱うグローバル教育センター、短期自費留学を扱うスタディアブロード、その他UNSWへの留学生が主に短期留学に集中しているアメリカ、ヨーロッパ、ロシアをターゲットにした学位留学生のリクルートもここに組み込まれている。これに対して、学位留学生リクルート

部門は、中東／アフリカ／インド地域、インドネシア地域、シンガポール／マレーシア及びその他のオセアニア地域、中国を中心とする東アジアの4地域のターゲット別グループと国際マーケティング課の5つに分かれ業務を行っている。この学位留学生リクルート部門は、これとは別に現在新たにベトナムを中心としたメコン地域戦略部門を設立して、留学生獲得のための活動を展開している。UNSW Internationalは、留学生リクルートの要となる香港、中国、シンガポール、タイ、インド、インドネシア、ナイジェリア、ドイツ、アメリカに大学直属の海外オフィスを置いており、上で述べた各国での学位留学生のリクルート活動はこの海外オフィスが中心となって行っている。その他日本を含む海外45カ国およそ100社の留学斡旋業者とも提携しており、ここで短期自費留学、言語学習留学¹⁶を中心に留学生をリクルートしている。大学の情報が留学希望者に正式に伝わるように、これらの留学斡旋業者を対象にしたトレーニングワークショップが年一度キャンパスで行われている。UNSWが行っている海外オフィスや業者を通じた留学生リクルート活動では、高校生を中心とした学部留学生のリクルートも行っているが、昨今の経済事情から、期間が長くより出費がかさむ学士留学よりも、期間が短い分安価で学位が取得できる大学院コースワーク修士号の留学生獲得により力を注いでいる。

3-2. UNSW Global における語学留学と大学入学準備コース

大学の学位プログラムと直接関係がない語学留学と大学入学準備コース(Foundation Studies)は、大学所有の私設企業UNSW Globalで業務が行われている。UNSWの大学入学準備コースは、オーストラリアに現在数ある大学入学準備コースの中では最も歴史が古く今年設立25周年を迎えた。ここでは直接大学に入学するための資格条件を満たしていないオーストラリア人や学位留学希望者に資格取得のためのコースを提供し、コース合格者にはUNSWへ入学の道を開くだけでなく、学術分野によっては準備コースで履修したコースの一部を大学の学位プログラムの単位として認めている。主にUNSWへの入学を目的としたコースではあるが、他大学への入学のサポートももちろん行っている。このコースへの登録数は2010年からやや落ち込んでいるものの、年間1,000を超える大学入学希望者が、やはり中国(コース登録総数の半数以上)、香港、インドネシア中心に様々な国から集まり現地オーストラリア人¹⁷と共に大学入学を目指して学んでいる。

一方、英語を学ぶことのみを目的とする語学留学関連業務はUNSW語学学校(Institute of Languages)が行っている。ここでは大学入学に必要とされる英語力をつけるためのAcademic Englishというコース、一般英語コース、そしてビジネス、法律、医療等プロフェッショナルの分野専門の英語コースを提供しており、数週間から数カ月の期間にわたって国内外から個人、または団体に学生を受け入れている。学生の大半は個人登録ではあるが、ここ数年海外の大学との連携で長期休暇を利用して学生グループを英語コースに受け入れる、いわゆる語学研修ツアーによる登録者の数が増えてきている。受け入れ国も東アジア中心から現在は東南アジア、南米、中東へと広がり、2013年の団体登録者の数は過去最大の608人に上り、全学登録者数1,885人の約3分の1近くを占めた。この語学研修ツアーは日本が最大のマーケットで、毎年

参加グループの半数は日本の大学から来る学生である。このため、語学学校も日本語サイトの立ち上げや代表の定期的な訪日を通して、語学留学プログラムのプロモーションに力を入れている。

以上、UNSWの留学関連業務についてまとめた。UNSW InternationalとUNSW Globalの運営組織は別のものであるが、定期的に連絡会議を開き、協力しながらUNSWの国際教育の向上に力を入れている。最近立ち上げられた、LIONというUNSWの留学関連情報共有イントラネットサイトでは、UNSWの国際教育に関する様々な統計データや海外大学との協定書、その他留学関係の資料がまとめられていて、学内の国際教育に関わるスタッフにログイン公開されている。こういったサイトは学内で分業されている国際教育を一本にまとめる効果的なツールとして大いに貢献していると言える。

4. おわりに：オーストラリアにおける日本人留学生の現状と展望

本稿を締めくくるにあたって、オーストラリア・日本両国間の留学事情について簡単にまとめる。上記のLIONの統計データによると、2012年の日本人学位留学生の登録は全豪で1,802、うちGo8研究8大学への登録が610、そしてUNSWの登録は学士プログラムが25、コースワークによる修士プログラムが23、研究学位プログラムへの登録が7の合計55¹⁸で、2008年の数値（全豪2,987、Go8 869、UNSW 79）と比較するといずれも減少している。オーストラリアでの留学生数の減少は日本に限ったことではないが、UNSW Internationalでは日本は留学マーケットとしては特に難しい国だという見方だ。日本の少子化による大学生人口の減少、経済低迷、そしてオーストラリアの物価上昇率による授業料や住宅、その他の生活コストの高さが原因だとしている。その一方で先に述べた通り所属大学から短期語学研修ツアーを組んで英語を学びに来る日本人学生グループは、2012年は11大学、2013年は19大学と数が増えている。これはどうしてだろうか。最近の日本人留学生の減少は、日本の若者の内向き志向に起因するとマスコミでは報じられている¹⁹。そういった内向き志向は、経済不況、就職活動時期への影響といった社会要因に起因するところが大きいと言われているが²⁰、その他にもオーストラリアの大学は留學生に高い英語能力を要求するという点が、日本人のオーストラリアへの大学留学のハードルになっていると考えられる²¹。こういった事情から、大学への学位留学や交換留学よりもコストが安く、学休期間に英語の能力に関わらず参加できて、しかも所属大学の単位として認められる短期語学留学のほうが、現在需要が高いのかもしれない。

2013年6月に日本政府が発表した「日本再興戦略Japan is Back」では日本人留学生の増加促進とその対策案が盛り込まれている。これを受けて、Austrade（オーストラリア貿易促進庁）は2014年10月に東京でAustralia Future Unlimited Education Exhibition(AFUEE)豪州教育博の開催を決定、12月初旬にはそれにむけて豪州各地でさまざまなレベルの教育機関を対象にブリーフィングを行う。また11月6日にAustradeがリリースしたニュースでは、2013年日本では子供に海外留学を望む親の数が急増したと報じられた。これを受けて日本人学生をオーストラリアに呼び込むための現状分析と方略が提案されており²²、今後の動向が興味深い。一方、2013年新政権となったオーストラリアでも新コロambo計画が発表され、2015年より5年間1億ドルを投じて

オーストラリアの大学生を日本を含むアジア太平洋地域の4カ国に送り出すと発表した。両国でのこれらの取り組みが日豪間の学生交流の再活性化に繋がることを期待する。

謝辞: 本稿を書くにあたって、UNSW International の Aleksandr Voninski、Christopher McKenna、Anna Martin、Andrew Fester、UNSW Global の Adele Pitkeathly の5氏より協力を得た。ここにお礼を申し上げる。

注

¹ OECD (2013) Education Indicators in Focus, vol5, July
http://www.keepeek.com/Digital-Asset-Management/oecd/education/how-is-international-student-mobility-shaping-up_5k43k8r4k821-en#page1 (2013年11月18日閲覧)

² 本稿は、オーストラリアの大学における留学生受け入れについてまとめるため、注がある場合を除いて、「高等教育機関で学ぶ留学生」を「留学生」と言及する。

³ 上記 OECD の資料では数字データを整数のみで提示しているため、少数点以下の数値が2010年からどのように変化したのかは不明。

⁴ <http://www.jasso.go.jp/about/documents/hashimotohiroko.pdf> (2013年11月18日閲覧)

⁵ <https://aei.gov.au/research/Research-Snapshots/Documents/Export%20Income%202012.pdf> (2013年11月19日閲覧)

⁶ <https://aei.gov.au/research/Research-Snapshots/Documents/International%20Student%20Numbers%202011.pdf>
 (2013年11月19日閲覧)

⁷ <https://aei.gov.au/research/Research-Snapshots/Documents/International%20Student%20Numbers%202012.pdf> (2013年11月19日閲覧)

⁸ AEI では年の途中で発表されるデータは留学生の人数ではなく登録数で表している。

⁹ http://www.obhe.ac.uk/documents/view_details?id=934 (2013年11月19日閲覧)

¹⁰ <http://ihe.britishcouncil.org/educationintelligence/future-world-mobile-students-2024> (2013年11月18日閲覧)

¹¹ 例えばニューサウスウェールズ州では、州政府が2011年11月に国際教育及び研究特別対策委員会 (The International Education and Research Taskforce) を発足した。委員会ではニューサウスウェールズ州における国際教育と研究産業の発展のための短期的、中期的、そして長期的対策案を立案し94ページの報告書にまとめて2012年州政府に提出、検討を促している。

http://www.business.nsw.gov.au/_data/assets/pdf_file/0003/25572/NSW_IER_IAP_final_web_20130208.pdf (2013年11月18日閲覧)

¹² <http://www.universitas21.com> 日本では早稲田大学が加入している。

¹³ この数には短期自費留学生、交換留学生、そしてプラクティカムと呼ばれる国際実習生が含まれていない。これらも含めると、留学生の学生総数に対する割合はさらに上がっておよそ27%になる。なお、統計の基準によって数値が出典によって異なるため、本稿ではUNSWの国際教育に関わる情報共有サイト、LIONに上げられている2012年9月の統計、UNSW International 2012 Statistics update を参照している。

¹⁴ <http://www.international.unsw.edu.au>

¹⁵ <http://www.unswglobal.unsw.edu.au>

¹⁶ 言語学習留学は UNSW Global の管轄になる。短期自費留学に関する業務は元は後述する UNSW Global で行われていたのが、2011年に UNSW International に移されたという経緯がある。

¹⁷ オーストラリア人の登録数は2011年のデータではインドネシアに続く第4位で47だったが、これは登録総数の4%程度である。

¹⁸ 2013年のデータはまだ出そろっていないが、日本人留学生の登録数は2012年よりさらに少ない48と発表されている。

¹⁹ たとえば、http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG25045_V20C13A6CR8000/ (2013年11月27日閲覧)

²⁰ 日本人留学生の減少の要因と対策についてはウェブマガジン『留学交流』2011年5月号で小林明氏が議論している。

<http://www.jasso.go.jp/about/documents/akirakobayashi.pdf> (2013年11月27日閲覧)

²¹ http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG18014_Y3A810C1CR8000/ (2013年11月27日閲覧)

²²

<http://www.austrade.gov.au/Education/News/Updates/Upward-trend-of-Japanese-school-students-eyeing-study-abroad#.UpbvBqWitRc> (2013年11月28日閲覧)